

令和5年度 事業報告書

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

1. 会議の開催

(1) 総会

- ・5月時点での対象企業会員数169社(新規会員除く)に対し、105社から回答(総会出席18社、委任状87社、回答率62.5%)、個人会員20名に対し、8名から回答(回答率40.0%)があり、令和5年度の議案書(昨年度実績と本年度事業計画)については、提案のとおり承認された。

・記念基調講演

埤克己 鈴鹿高専名誉教授・鈴鹿高専テクノプラザ元事務局長

「鈴鹿高専テクノプラザ設立当時を振り返って」

兼松秀行 特命教授 「テクノプラザから始まった GEAR の産学連携」

(2) 理事会

1) 第1回理事会 令和5年4月25日(火) 15:00～ マルチメディア棟 1F 視聴覚室 出席者26名

- ① 令和5年度 通常総会議案書(案)について
- ② 年度毎の事業経費の推移(設立時～令和5年度)について
- ③ 年間活動日程について

2) 第2回理事会 令和5年11月8日(火) 事務・教養棟2階 会議室B 出席者28名

- ① 今年度の会員動向について(令和5年4月以降)
- ② 共同研究、受託研究、技術相談の支援について
- ③ 今年度の主な事業の中間報告(令和5年9月30日現在)について
- ④ 今後の事業の実施について[企業ガイドブック2023の作成、出前講座、企業紹介デジタルサイネージの整備、高専卒業生の転職、Uターン就職希望者など]
- ⑤ 会員増強について(最終300社を目指す。)
- ⑥ 会員企業への就職学生数について

2. 事業の実施

(1) 会員企業との共同研究等による研究協力の推進

1) 共同研究・受託研究への支援

[支援内容：会員企業からの共同/受託研究費(間接経費10%を含めた研究費)の20%を、担当の高専教職員に寄附金として助成する。但し、1件20万円を上限とする。]

○共同研究：6件

・東京化成工業株式会社(高倉教授他3名)	1,200,000円(200,000円助成)
・ミズノテクニクス株式会社(末次教授他2名)	990,000円(198,000円助成)
・株式会社荏原風力機械(近藤教授)	750,200円(150,040円助成)
・エイベックス株式会社(板谷准教授他4名)	3,000,000円(200,000円助成)
・株式会社 MonotaRO(平井教授)	3,000,000円(200,000円助成)
・飯田織工株式会社(黒田教授)	200,000円(40,000円助成)

○受託研究：0件

2) 会員企業の技術相談に関する助成

〔支援内容：同様な内容の技術相談が1年以内に2回以上に及ぶ会員企業からの相談料は、2回目以降も無料とし、相談担当の高専教職員に寄付金として助成する。〕

○技術相談：9社

・ MonotaRO 株式会社	近藤教授(1回で終了)	助成	0円
・ 株式会社光機械製作所	黒田教授(1回で終了)	助成	0円
・ 株式会社セロレーベル	兼松特命教授(2回)	助成	13,500円
・ SWCC 株式会社	黒田教授(1回で終了)	助成	0円
・ スズカファイン株式会社	河合助教(1回で終了)	助成	0円
・ 河村産業株式会社	和田教授(2回)	助成	13,500円
・ 飯田織工株式会社	黒田教授(1回で終了)	助成	0円
・ トーカロ株式会社	兼松特命教授(1回で終了)	助成	0円
・ 株式会社 LIXIL	兼松特命教授(2回)	助成	13,500円

3) 会員企業の研究設備利用

〔優遇制度：通常使用料から30%減額にて適用される。〕

○企業会員の研究設備利用：2件

- ・ 三重県工業研究所 2件

4) 会員企業との共同研究等推進に関する助成

〔ランチタイムミーティング等により、企業会員と共同研究等における新たな研究テーマの創出ができた場合の研究推進費として支援する。〕

○企業会員との共同研究等における研究推進：0件

5) ランチタイムミーティングによる取組み

〔共同研究等における鈴鹿高専との研究推進を目的として支援する。〕

○企業会員とのランチタイムミーティングによる取組み：0件

(2) 産学官の人的、情報交流の促進

企業交流会・・・〔令和5年11月8日(水)開催〕

- ・ 鈴鹿高専新しい取り組み紹介、高専教員の研究に関わる話題提供3名、創造工学「各学科優秀作品」のビデオ紹介を行い、会員企業と学内教職員の約48名が参加した。

(3) 会員企業の技術向上に関する支援

1) 企業技術者対象の講習会の実施

令和5年度実績なし

2) 会員企業見学会の実施・・・〔9月7日(木) 午後実施〕

- ・ 見学先：ダイソウ工業株式会社
- 参加者：13名



企業見学会

3) 鈴鹿高専教員の企業訪問による『出前講座』の実施

- ・ 鈴鹿高専テクノプラザ・出前講座メニューから希望される講義可能内容等を選択頂き開催
 - ・ 住友電装株式会社(令和5年8月29日(火)～9月1日(金)計4日間実施)
機械工学科 藤松教授 鬼頭准教授 「流体力学・熱工学講座」
- なお、出前講座のメニューは、継続してホームページに掲載している。

4) 講演会の開催

- ・ 令和4年度・5年度教育研究経費(校長裁量経費)実施報告会 [令和6年3月19日(火)開催]
会員企業から約2名の方にご参加頂き、16名の教員が報告を行った。
- ・ 鈴鹿高専せれんでクラブ講演会・・・[3月7日(木)開催] 視聴覚室
講演:材料工学科 黒飛准教授
参加者:17名

5) メールによる会員企業向けの情報提供

- ・ 航空業界 News [航空宇宙人材育成/ASK 代表 川合勝義氏からの配信]
- ・ 第14回 SUMS-NITS 医工連携研究会 [9月28日(木)開催]
- ・ 第15回 SUMS-NITS 医工連携研究会 [3月4日(月)開催]

(4) 人財確保の支援、会員企業 PR 等

1) 「企業ガイドブック 2023」の作成と学生への配布

- ・ 令和5年度から表紙、企業紹介ページの内容を大幅にリニューアルした。
- ・ 企業会員85社分を掲載した冊子を第3学年、第4学年及び専攻科1年次の学生に配布して会員企業を紹介した。(全100頁/部530冊)



企業ガイドブック 2023 の発行

2) 合同業界説明会での会員企業紹介 [10月25日(水)開催]

- ・ 第3学年の参加希望者、学科第4学年、専攻科1年次を対象とし、参加会員企業88社で開催した。
- ・ 2部構成とし1部につき3つのタームを設け、フリータイム(学生が企業ブースを自由に選択できる時間)も設定した。
- ・ 開催後にアンケートも実施し、概ね満足を頂いた結果となった。



合同業界説明会開催様子

3) 高専祭での会員企業展示 [令和5年10月21日(土)、22日(日)開催]

学科展示の会場である第2体育館にデジタルサイネージに加えてR5年度は会員企業紹介ポスター設置し、会員企業の紹介を行った。



高専祭企業ポスター掲示

4) 鈴鹿市ものづくり企業フェアでの活動紹介

[令和5年1月22日(日)開催] 於: 鈴鹿ハンター

- ・ 鈴鹿高専テクノプラザ紹介及び生物応用化学科紹介をパネル展示により PR を行った。

5) 企業会員の情報共有における企業取組み発信

- ・企業会員間における技術的交流を促進するため、ホームページ上に各企業の業種等の情報を掲載した。(企業会員のみが閲覧可能)

6) 高専卒業生の転職、Uターン就職希望者

- ・三重県労働局との打合せにより、法に抵触しない状態で活動を継続中である。
- ・鈴鹿高専テクノプラザホームページ上に「鈴鹿高専テクノプラザ：人材確保の支援(会員企業と鈴鹿高専生や OB 転職者希望者の輪を活かし即戦力人材の確保へ繋がります。)」として掲載している。
- ・青峰同窓会報 2023 版(R5 年 10 月発行)に「鈴鹿高専は皆さんの U ターンを支援しています」と掲載。
- ・令和 5 年度もコーディネーターが卒業生からの問い合わせに対して複数件対応した。
- ・年度内に IUJ ターンホームページの会員企業情報入力ページの整備を完了した。

7) 高専 OB による知的シルバー人材活用

- ・コーディネーターによる企業訪問の際に、本校卒業生による知的シルバー人材についての紹介活動を行っているが、現時点での実績なし。

8) 銘板の増設

鈴鹿高専を支援頂く企業会員、特別会員、個人会員を本校の教職員や学生に紹介するとともに、来校者に PR し入会を推進した。



(5) 高専の教育、国際交流の充実および学生との交流の促進

1) 高専の技術者教育〔令和 5 年 5 月 11 日(木)〕開催

「高専の技術者教育に関する支援」に関し、招待講演実施の助成
卓越したグローバルエンジニア育成事業特別講義

Loyla Mount 大学 Rafiqul Noorani 教授 演題：「ロボット：教育界と産業界の不思議」

2) 高専祭学科展示作品の審査と優秀作品の表彰

各学科から選出された創造工学における優秀作品を高専祭でビデオ撮影し、11 月 8 日(水)に開催した企業交流会で放映した。交流会参加者による投票で得票の最も多かった電子情報工学科を最優秀賞として選出、後日校長室にて表彰式を行った。

3) 学生海外派遣支援

学生海外派遣プログラムとしてアメリカ/オハイオ州へ派遣された学生9名に支援を行った。

4) 会員企業による授業支援

専攻科グローバル・リーダー論等の授業において、企業会員の技術者を活用し国内外を問わず活躍できる人材育成支援を行った。

(6) 企業会員、個人会員増強

- ・本年度の目標であった「会員企業を 175 社まで増やす」については、目標達成(令和 6 年 3 月末会員数 178 社)となった。(来年度の目標は 185 社、最終 300 社を目指す。)
- ・個人会員については、終身会費 3 万円として既に会則等を見直しており、また、青峰同窓会会報等による PR 活動内容を改め、会員増における取組みを強化・継続する。

(7) そ の 他

- ・10 月にデジタルサイネージの新規追加・更新を行い、令和 4 年度 71 社から令和 5 年度 87 社の動画掲載となった。なお、電子情報工学科棟 1 階、生物応用化学科棟 1 階、マルチメディア棟 1 階の 3 箇所に設置されている。
- ・鈴鹿高専が行うスタートアップ教育環境整備事業に対して支援を行った。
- ・本校卒業生に向けた IUJ ターンポータル Web ページを作成とそれに伴う管理機能の強化を行った。



3. 会員企業への就職学生数について

- ・平成 25 年度：会員企業 7 社に 11 名
(機械工学科：2 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：4 名)
- ・平成 26 年度：会員企業 6 社に 7 名
(電気電子工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、材料工学科：4 名)
- ・平成 27 年度：会員企業 4 社に 10 名
(機械工学科：1 名、電気電子工学科：2 名、生物応用化学科：3 名、材料工学科：3 名、
電子機械工学専攻：1 名)
- ・平成 28 年度：会員企業 9 社に 17 名
(機械工学科：4 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：2 名、
材料工学科：8 名)
- ・平成 29 年度：会員企業 9 社に 15 名
(機械工学科：5 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：4 名、
材料工学科：4 名)
- ・平成 30 年度：会員企業 10 社に 14 名
(機械工学科：3 名、電気電子工学科：0 名、電子情報工学科：0 名、生物応用化学科：7 名、
材料工学科：3 名、応用物質工学専攻：1 名)
- ・令和元年度：会員企業 16 社に 18 名
(機械工学科：0 名、電気電子工学科：2 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：5 名、
材料工学科：7 名、応用物質工学専攻：3 名)
- ・令和 2 年度：会員企業 16 社に 26 名
(機械工学科：6 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：2 名、生物応用化学科：5 名、
材料工学科：7 名、総合イノベーション工学専攻：1 名)
- ・令和 3 年度：会員企業 15 社に 27 名

(機械工学科：8 名、電気電子工学科：4 名、電子情報工学科：1 名、生物応用化学科：4 名、
材料工学科：5 名、総合イノベーション工学専攻：5 名)

- ・令和 4 年度：会員企業 21 社に 36 名

(機械工学科：7 名、電気電子工学科：8 名、電子情報工学科：8 名、生物応用化学科：3 名、
材料工学科：5 名、総合イノベーション工学専攻：5 名)

- ・令和 5 年度：会員企業 15 社に 31 名

(機械工学科：8 名、電気電子工学科：5 名、電子情報工学科：3 名、生物応用化学科：1 名、
材料工学科：10 名、総合イノベーション工学専攻：4 名)

4. 会員数の推移について

	企業会員	個人会員	特別会員	退会企業
平成 25 年 設立総会(3 月)	27 社	2 名	2 団体	一社
平成 26 年度 総会(5 月末)	47	4	8	8
平成 27 年度 総会(5 月末)	50	4	9	1
平成 28 年度 総会(5 月末)	58	6	10	3
平成 29 年度 総会(5 月中旬)	63	6	11	1
平成 30 年度 総会(5 月末)	94	9	12	1
令和元年度 総会(4 月末)	116	15	12	3
令和 2 年度 総会(4 月末)	128	18	13	6
令和 3 年度 総会(3 月末)	147	18	13	2
令和 4 年度 総会(3 月末)	154	20	15	8
令和 5 年度 総会(3 月末)	170	20	16	13
令和 6 年度 総会(3 月末)	178	21	16	5